フィリップ・アリエス急逝。私どもは、いま、この異国の歴史学者の死に対して、心からの哀悼の意を表したい。

『〈子供〉の誕生』（原題は「アンシァン・レジーム期における子供と家族生活」）の邦訳によって、わが国の知の世界は、一躍、アリエスを時代の寵児として迎え入れた。「日仏会館」が、その記念行事の講演者として、彼の来日を計画したのも、この動きの現われであろう。しかし、この企画の実現を前に、彼は不帰の客となった。

中世の社会において、子どもは、人々の認識野に浮上していなかった。彼らが、現在のように、「子ども期を生きるもの」として人々の目に把えられるようになったのは、アンシァン・レジーム期以降、たかだか、ここ三〇〇年ほどのことに過ぎない。こんな言説が論壇に跳梁し、子どもに言及する人々が、一様にアリエスを念頭におくのが、ここ数年の趨勢であったとすら言い得よう。わが国におけるアリエス評価は、『フランス人口の歴史』や『死を前にした人間』など、彼のその他の労作にもまして、『〈子供〉の誕生』の一作に収斂されているかの感があった。ことほどさように、「子ども」をめぐる言説が突破口を求めて、新しい視点を探し求めていた、ということかも知れない。

しかし、にもかかわらず、わが国の「幼児保育」の世界では、アリエスなど未だ無縁の人、遠い異国でややこしい本を書いた一人の硯学に過ぎないのではないか。「子ども」をめぐって活発化する知の動きも、「幼児保育」の世界には、格別のインパクトを与えてはいないようだ。子どもと保育者が、知の世界の無風地帯でひたと向き合う。このことの意義を、どう評価すべきなのだろうか。（H）

幼児の教育　第八十三巻　第六号
六月号　©
定価三〇〇円
昭和五十九年　五月二十五日　印刷
昭和五十九年　六月　一日　発行
東京都文京区大塚二ノ一ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内
編集兼発行人　本田和子
東京都文京区大塚二ノ一ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内
発行所　日本幼稚園協会
東京都港区三田五ノ一二ノ一
印刷所　図書印刷株式会社
東京都千代田区神田小川町三ノ一
発売所　株式会社　フレーベル館
振替口座東京九—一九六四〇番
◉本誌御購読についての御注文は発売所フレーベル館にお願いいたします

※万一製品不良品がございましたら，おとりかえいたします。